

2023年度若手研究者共同研究プロジェクト実施報告書

法政大学総長 殿

以下のとおり研究実施報告書を提出します。

基 本 情 報	研究課題名：ソ連社会主義リアリズム絵画における「シビア・スタイル」の研究：アゼルバイジャン人画家サラー・ホフを軸に
	研究代表者 氏名：佐藤 大雅
	【在籍者】 研究科・専攻・学年：国際文化研究科・国際文化専攻・博士後期課程3年
	指導教員（所属・職・氏名）：佐藤 千登勢（国際文化学部／国際文化研究科・教授） (※在籍者のみ記入)
	共同研究者（所属・職・氏名）： (※指導教員と同人の場合は記入不要)
	その他 研究分担者：
	研究期間： 2022年度～2024年度 (※研究終了年度を記載)

※研究計画の進捗状況を中心に今年度の研究実施状況を記載してください。

1. 2023年度の活動報告

① 学会発表：2回

- A) 9月：INTERFACEing2023（国際シンポジウム）「Tahir Salakhov and the Age of Crisis of Soviet Socialist Realist Painting」（英語発表）
- B) 10月：日本ロシア文学会第73回大会（全国大会）「なぜ「シビア・スタイル」は再評価されているのか？」

② 論文：1件

上記2学会発表（A）及びB）の内容に基づく論文を投稿作業中。（当該論文の仮題：「「雪解け」期ソ連の公式絵画：シビア・スタイルの＜発見＞と社会主義リアリズム絵画の発展」）

③ 現地調査：1回

- ・本助成を活用し、前年（2022）度に引き続き、アゼルバイジャンにおいて現地調査を実施した。当該現地調査の概要は以下の通り。

期間	2023年8月18日～26日
現地調査先	アゼルバイジャン・バクー市

- ・当該現地調査では、主に以下i～iiiを実施。
 - i. アゼルバイジャン国立図書館における資料収集（国内所蔵のない書籍・雑誌・新聞記事の複写等を実施）
 - ii. 書店及び古書店での資料収集
 - iii. 美術館訪問（a.ターヒル・サラホフの家博物館、b.アゼルバイジャン国立美術館、c.現代美術スペース「YARAT」）、及び作品の写真撮影を実施。a.では、前大統領ヘイダル・アリエフの生誕100周年を記念した特別展が開催された。当該展覧会では、常設展では展示されないアゼルバイジャン絵画の名品が一挙に展示された。

2. 今年度実施した研究発表の概要

- ・1950年代後半以降に登場した社会主義リアリズム絵画の一潮流である「シビア・スタイル」は、カメンスキイがその概念及び用語を提示して以降、現在に至るまで、「回顧的に」発見され、「シビア・スタイル」の意味範囲は常に見直されてきた。
- ・従前、社会主義リアリズム絵画についての権威的な論攷（例：ボリス・グロイス「スターリン・スタイル」等）が、同スタイルを扱ってこなかった事実を反省的に捉える動向が近年観測される。同スタイルへの（研究的）関心の高まりは、2000年代以降、特に重要な論攷及び批評が多数刊行されている事実に反映されている。
- ・現在までの研究動向を踏まえ、同スタイルの前史である美術批評家ドミートリエヴァの「現代的なスタイル『Современный стиль』」を巡る議論から、近年の論攷及び批評までを概観し、シビア・スタイルの概念形成史を整理した。

3. 次年度の課題・目標

- ・今年度取り組んだ「シビア・スタイル」概念の形成史研究を基に、①同時期のアゼルバイジャン絵画の発展を明らかにすると共に、②同時期のアゼルバイジャン画家にとって「シビア・スタイル」が如何なる意味を持つのかを明らかにする。更に、①及び②の内容を踏まえ、③ターヒル・サラホフがアゼルバイジャン絵画の発展にとって如何なる寄与を果たしたのかを明らかにする。

研究業績	成果発表（学会・論文・研究会等）		
	学会・論文・研究会等の別	タイトル	発行または発表年月
	国際シンポジウム：INTERFACEing2023	Tahir Salakhov and the Age of Crisis of Soviet Socialist Realist Painting（英語発表）	2023年9月
	学会発表：日本ロシア文学会第73回大会（全国大会）	なぜ「シビア・スタイル」は再評価されているのか？	2023年10月
その他（アピールすることがあればご記入ください。）			